天津外国語大学での集中講義について（2019 年 3 月 25 日～29 日）

グローバル学部
グローバルビジネス学科教授　欒　殿武
2019 年 4 月

天津外国語大学へは、大学間交流の関係でほぼ毎年出張に行っているが、1 泊 2 日の日程が多く、大学で授業をしたり、天津市の街並みをゆっくり観察したりする余裕はなかった。今回は 1 週間の集中講義を行うこととなり、久しぶりに落ち着いて天津という大都会を見てきた。

大学では、大学院修士課程文化専攻の 1 年生を対象に、日本文化論の基礎文献、比較文化の視点と研究法の基本、研究テーマの選び方などに関して講義を行った。2，3 日目から新たに聴講に加わる学生もいたが、学生たちはみな無遅刻無欠席で、真面目に授業に取り組んでいたことが印象的であった。中国の大学キャンパスで早朝よく見られる音読シーンもまだ健在で、今回も学生食堂でよく音読する学生を見かけた。

最終日に日本語学院の学部生を対象に講演を行い、日常生活における事象を取り上げ、比較文化論の観点から日本と中国の食文化を語った。大学院生や学部生など 60 人の学生たちが集まった。同じ時期に、広島大学の先生も講演を行っており、天津外国語大学が、いくつもの日本の大学と盛んに交流している様子の一端が伺えた。

講義の様子

講義後の集合写真

天津外国語大学と本学は、長年の良好な交流関係を保っており、学生と教員の相互派遣、ダブルディグリープログラムの推進、大学院生の推薦など、大学院と学部レベルの交流が緊密に連携している。昨年、本学の卒業生が初めて天津外国語大学大学院修士課程同時通訳専攻（下記写真左 3）に進学し、現在、協定留学、SAP 留学など、本学出身の学生が 8 名天津外国語大学に在籍しており、人材育成の面における協力が全面展開されている。また、天津外国語大学の協力で武蔵野大学孔子学院が設立して今年で 3 年になるが、天津外国語大学派遣の中国語教員、ボランティアの大学院生及び交換留学生たちの努力で、中国文化と中国語の学習に強い関心を持つ学生が増え、開講講座とサマーキャンプへの参加者は年々増えている。

本学から天津外国語大学に留学中の学生と

天津外国語大学は、本学からの訪問者をいつも熱烈に歓迎し、もてなしてくれる。今回も前学長の修剛先生を始め、国際交流処処長代理、日本語学院院長、副院長などの先生方が盛大な食事会を開いてくださった。席上、今後の交流の展開や孔子学院の役割の一層の強化など、交流を深める分野の具体的な措置を話し合い、非常に有意義な時間を過ごした。

授業の合間には、激変する大都市天津の様相を観察した。もともと近代の天津は、横浜のように西洋文化の影響を深く受けた開かれた港町で、旧租界という地域には西洋建築が多く、お洒落な雰囲気が漂っている。1990 年代に入ると、道路の拡張工事が行われ、旧市街の再開発が急ピッチで進められた。その結果、今は洋館と近代建築が立ち並び、町の中心を流れる海河の岸辺を散策すると、夜景のまばゆさに驚嘆した。春先の寒さがまだ残っている中、川下りの遊覧船が行き交い、橋のふもとでは若者のバンドが流行りの曲を歌い、多くの観衆の拍手喝采を博していた。

天津駅付近の夜景

もう一つ、驚かされたのはキャッシュレス社会の現状、携帯による決済の便利さを目の当たりにしたことである。タクシー、スーパー、レストラン、デパートはさることながら、学生食堂から市場の屋台に至るまで、日常生活のすべてのシーンで携帯による支払いができる。そのほか、ホテルや高速鉄道のチケットの予約なども全部携帯アプリでで き、便利かつ快適であった。

「百聞一見に如かず」とよく言われるが、忙しい日常から離れ、じっくり海外の街を観察し、交流を深めることは極めて有意義だと実感した。本学孔子学院は毎年 9 月に、天津外国語大学でサマーキャンプを実施している。往復航空券と保険のみ自己負担で非常に参加しやすい研修なので、学生諸君もぜひ積極的に参加し、中国語の語学力を高めると同時に、現地で自分の目で中国を観察し、見聞を広めてほしいと思う。